

蒴蓋はより小さくて尖り、外蒴齒の基部が内齒と癒着するなどの諸点からコハリガネゴケとの区別はさほど困難ではない。本報告によつてコハリガネゴケは本邦産蘚類フロラから一先ず除外されることになる。

終りにのぞみ文献調査に多大の便宜を与えられた堀川教授・鈴木助教授・安藤講師をはじめ同研究室の方々、貴重な標本を恵与或は貸与された服部研究所・前原・越智・樋口・斎藤の諸氏、標本検討を快諾せられ種々便宜を与えられた京大北村教授・田川助教授をはじめ同研究室の方々に深甚の謝意を表する。(昭和30年7月)

○ヒヨドリバナの海岸型 (津山 尙) Takasi TUYAMA: Littoral variety of *Eupatorium lindleyanum* DC.

1951年8月23日佐竹義輔氏、鈴木泰氏などと三宅島の伊豆ガ崎を採集中、雑草の生い茂つた断崖の上で、海岸から至近の場所でサワヒヨドリの一型を採集した。このものは葉が広く丸味を帯び鈍頭で、脈上は勿論、葉面に表裏共に白色、多細胞の長軟毛が密に(或はやや密に)生じていて、基本型が三行脈であるのに比して五行脈状をなしている。新変種と認めて、ハマサワヒヨドリの和名と次の学名を与える。鈴木泰氏は翌24日同島の雄山の火口原に発達する低灌木草原(海拔約700m)の中にも、これを発見した。雄山の標本では、葉面の毛は多少少いが、五行脈は明かである。

Eupatorium lindleyanum DC. var. **Yasushii** Tuyama var. nov.

A typo differt foliis medianis latioribus sed variabilis vulgo ellipticis saepe ovato-ellipticis vel anguste ellipticis vel elliptico-lanceolatis, apice obtusis, subquinquenerviatis, cum pilis mollis albis patentissimis ca. 1.0-1.5 mm longis subdense sed in nervis densius obtectis, texturis carnosiusculis, internodiis inferioribus abbreviatis. Planta littoralis.

Nom. jap. Hama-sawahiyodori (K. Hiyama, Jan. 1951).

Hab. Prov. Izu: Ins. Miyake-jima, Izugasaki vel Izumigasaki, in herbis littoralibus (leg. Yasushi Suzuki, et T. Tuyama, Aug. 23, 1951—Typus in Herb. Mus. Sci. Nation., Tokyo); ibidem, in herbis in summo montis vulcanis Oyama, ca. 700 m alt. (leg. Y. Suzuki, Aug. 24, 1951).

Note. Mr. K. Hiyama has already reported this variety in Japanese from the littoral zone near the city of Chōshi, Kazusa.

以上を大体纏めた後に檜山庫三氏が「野草」17: 139号に同じハマサワヒヨドリの和名の下に同じ変種を銚子附近の海岸の標本(武井尙氏採集 Jul. 30, 1950)に基いて報告しているのを知つた。また科学博物館の腊葉中に上総犬吠崎(1943年7月11日、浅野貞夫氏)の標本で典型的な広葉と多毛を有することによつて本変種に入るものがある。

ヒヨドリバナは根際に近い葉はやや多毛であり、その附近の莖も同様である。本変種ではこの状態が上方の葉に及んでいるものである。(御茶の水女子大学)